

注目ポイント！

- 伝統的建造物の保存による魅力ある町並み振興の推進。
- 小江戸に息づくものづくりの心を伝える産業観光の推進。

年間観光客数 約375万人から約494万人に！
(平成7年) (平成17年)



蔵の町並み(一番街)と時の鐘

コラム

「川越いも」

川越いもは江戸時代から「本場もの」として親しまれてきたが、戦後になって生産量が激減。

昭和59年(1984)、「おいもの地位復権」と「川越いもの保存」を目指して有志40人による「川越いも友の会」が結成される。

川越いもは再び脚光を浴びることとなり、芋菓子のもとより、「いも懷石」、「サツマイモラガー(発泡酒)」の開発や、会員による「さつまいも資料館」の設立など、町並みとともに川越の誇りになっている。

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 昭和58年(1983) | 市民、住民組織による川越蔵の会の設立。新しい町並み保存運動が始動する。 |
| 昭和59年(1984) | 「川越いも友の会」が発足。栽培、加工、流通、料理等川越いもの普及に努める。 |
| 昭和63年(1988) | 川越一番街商店街が町並み委員会を発足させ、「町づくり規範」を策定する。 |
| 平成元年(1989) | NHK大河ドラマ「春日局」が放映されたことをきっかけに、徳川家光、春日局ゆかりの喜多院等に多くの人々が訪れ、観光人気が高まる。 |
| 平成4年(1992) | 蔵の町並み(一番街)の電線地中化が完成する。 |
| 平成11年(1999) | 地域住民の熱意により、川越一番街商店街地域が伝統的建造物群保存地区に選定される。 |
| 平成14年(2002) | 川越蔵の会が活動範囲を広げるため、特定非営利活動法人(NPO)化。 |
| 平成15年(2003) | 川越まつり会館がオープン。常時3台の山車を展示し、通年で川越まつりを紹介する。 |
| 平成18年(2006) | 川越蔵の会が「まちなか職人展」を開催。川越に今も生きつづける職人技を披露する。 |

「川越蔵の会」によるまちづくり

蔵造りの町並みは、1960年代から衰退の一途を辿り、蔵の解体や取壊しが行われ、一時は大きな危機を迎えた。

1983年に市民・住民組織による「川越蔵の会」が発足し、商店街活性化による町並みの景観保存活動を進め、町並みの保全とまちづくりの取組を続けることによって、魅力ある町を形成するようになり、にぎわいを取り戻している。

現在、「川越蔵の会」はNPO法人として、伝統的な家屋の修復や町並みに合う建物の新築に関する市民へのアドバイスや、歴史的な建物などを利用したアートイベントの開催等の活動を展開。



長屋を利用したイベント活動

伝統技術を活かした地域再生

川越市は伝統産業の活性化を図るため、平成17年度からNPOとの協働で伝統産業の調査・発掘・保存・活用を行う。

平成18年2月には、NPO主催により職人の技などをとりあげた「まちなか職人展」を開催し、地域交流を推進。



のこぎり鍛冶の実演

お囃子で語る川越まつりの伝承

川越まつりで欠かせないのが、山車とそれに乗る囃子方。37のお囃子団体は、川越まつり囃子を継承するため日夜練習。音を出しての練習が難しく、太鼓の代わりにタイヤを叩くという涙ぐましい努力も。しかし、平成15年に川越まつり会館がオープンし、各囃子連は館内で思う存分練習し、日曜・祝日にはその成果を披露出来るようになり、まつり本番さながらの熱気と興奮を伝えている。



お囃子の練習

問い合わせ先

- 川越市役所観光課
Tel : 049 - 224 - 8811 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
- (社)小江戸川越観光協会
Tel : 049 - 227 - 8233 <http://www.koedo.or.jp>